



平成29年1月31日(火)発行 第51号  
発行:(公)北海道社会福祉士会十勝地区支部  
支部長:東村 智之  
編集:広報連携委員会

## 【十勝地区支部会員の皆様へ新年のご挨拶】

北海道社会福祉士会 会長 高橋 修一



みなさま、あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年は十勝地方に甚大な被害をもたらした一連の台風10号等の災害が記憶に残っていることと思います。北海道社会福祉士会は災害支援対策本部を立ち上げましたが、結果的に組織として被災地に具体的に支援活動には入ることは、ありませんでした。

しかし、初動期における情報把握や支部間の連絡体制確立という面においては、十勝地区支部のスピーディな対応と具体的な情報把握に向けた仕組み作りは、今後の全道的な災害支援の在り方を考えていく大きなヒントをいただき今後の参考になるものと思っております。災害対応の組織基盤は、日常的な実践活動の延長線上につくられます。その意味でも、十勝地区支部内での会員のみなさまが日頃から構築しているネットワークが有効に働いている現れだと感じております。

現在、社会保障制度全体が大きく揺らぐ「荒波」の中で、社会福祉士の役割と立ち位置が問われております。また、個人レベルでは社会福祉士に求められる役割と目指すべき理想や理念があまりにも高すぎて、自らが置かれている現実とのギャップに時に心が折れそうな時もあるかもしれません。

そのようなときこそ、北海道社会福祉士会という組織の力を存分に活用し、そしていろいろなかたちで参画し、力量を高めること、「私たち社会福祉士同士がつながること」が理想を具体化する歩みを強めていただきたいと存じます。

十勝地区支部の会員のみなさまにおかれましては、全道に先駆けた形の支部運営や実践活動のロールモデルの一端を作ってきた気風を受け継ぎながら、今後も荒波に負けない活動に一層力を入れていただけるものと確信しております。

本部とともに本年も頑張りましょう。

### 新役員紹介

#### ☆山口 潤 幹事☆



この度、幹事を拝命致しました、大樹町デイサービスセンターの山口 潤です。

介護福祉士として大樹町に採用されてから25年近く経過し、福祉

がどんどん進化しているのを感じています。

そんな中、社会福祉士を取得した際に会への入会を渋っていると、ある先輩から言われました。「メリット？それは研修に出られる事だよ。」今だからこそ、その言葉が新鮮に響いています。僕にできることは小さくても、動き出さなきゃ前に進まない。そんな気持ちで会の皆さんの協力を得ながら熱い十勝にしていければと思っております。今後とも皆様のお力添えを宜しくお願い致します。

#### ☆山口 芳伸 幹事☆



帯広市自立相談支援センターふらっとで相談員をしている山口 芳伸です。

もともとはしががない営業職(悪徳?)から転職、社会福

祉士の資格を取りました。社会の様々な格差を糧に、ときどき打ちのめされ倒れながら仕事をしています。

社会福祉士会ではまだまだひよっ子ですが、諸先輩方から多くのことを学びながら社会福祉士として活動していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

## ☆清野 敏彦 幹事☆



この度、支部幹事として企画調査委員会を担当させていただくことになりましたNPO法人ていんくる(自由学舎クラムボン)の清野 敏彦です。平成26年に社会福祉士の資格を取り、同年に入会させていただきました。歳は人生半分を過ぎているのですが、社会福祉士としては、まだまだ半人前ではあります。これからも皆さんのお力添えをいただきながら私なりに少しでも会の活動にご協力できるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 活動報告

### 【2016年度社会福祉セミナー】開催日:平成28年11月5日



2016年度社会福祉セミナーは、「夢再発見！～介護×看護×地域＝∞～」をテーマに、開催致しました。講演は、帯広畜産大学准教授村田 浩一郎氏、基調講演は、株式会社シルバーウッド代表取締役下川原 忠道氏を講師に迎え、「体操を通して見える十勝の魅力とは？」「認知症ケアから見える、暮らしと生き方とは」についてご講演いただきました。

また、「地域でこれから期待される人」と題した活動報告では、訪問看護ステーション向日葵の馬場訪問看護師さんや当会の鹿内事務局長からの活動報告を頂き、利用者さんや患者さんと日々真摯に向き合っている姿勢が伝わってきました。

### 【2016年度第2回学習会、意見交換会】開催日:平成28年12月10日

2016年度第2回学習会のテーマは、「社会福祉士って何をしているの?」と題し、日々福祉の現場で活躍している当会の4名(上士幌町社会福祉協議会河瀬さん、帯広若者サポートステーション久保さん、開西病院MSW鹿内さん、足寄町役場福祉課・国保病院相談員寺本さん)から実践報告をしていただきました。職場によっては普段、あまり関わる事のない機関で活躍されている社会福祉士のお話が聴け、あっという間の2時間でした。

その後、2017年度事業計画についての意見交換会を開催。今年は支部の体制も変わり、事業計画も来年度は今年度、昨年度に比べると大きく変更になっている点が多いので、気持ちを新たに会務運営に取り組んでいくことが確認されました。

夜は、懇親会という名の忘年会を開催し、楽しいひとときを過ごすことができました。



### 【合同研修会】開催日:平成29年1月28日



帯広市介護支援専門員連絡協議会様との合同研修会を開催し、両会合わせて約40名の参加がありました。研修会のテーマは「災害」。グループホームうららの佐藤さん、当会からは上士幌町社会福祉協議会の河瀬さん、清水赤十字病院の石井さんから実践報告をいただきました。その後、グループワークを行い、職種の垣根を超えて有事のときにどうしたらよいか、何ができるのか等各グループで活発な話し合いができました。

## 相 談 会 報 告

### ☆福祉フェスティバル『福祉なんでも相談会』☆

平成28年10月15日～10月16日に、十勝毎日新聞社主催の福祉フェスティバルが開催されました。当会も、毎年相談会を行っています。今年は2日間で5名の相談がありました。

例年、多くの相談とまではいきませんが、毎年続けることで社会福祉士を少しでも多くの方に知ってもらえるといいなと思っています。

### ☆10士業合同『くらしのよろず相談会』☆

平成28年11月23日、くらしのよろず相談会に社会福祉士会として初めて参加しました。弁護士、司法書士、行政書士などいわゆる士業と呼ばれる方々と協働して一緒に相談を受けることで、社会福祉士の必要性や役割を認識できました。また、さまざまな視点から生活を支えている士業の方々の専門性を理解することも大切だと実感しました。



# \*座談会報告\*

にゅーす51号では、座談会を企画し、昨年8月に各地に大きな被害をもたらした台風10号を実際に経験されて、活動されていた会員の方にお話しを伺いました。個人としてこの災害をどう感じたかや社会福祉士として何ができるのか等、みなさんに自由に語っていただきました！

座談会参加者：石井さん(清水町)、清野 光彦さん、祥子さん(新得町)、寺本さん(足寄町)、東村さん(芽室町)、山口さん(大樹町) \* 名前の表記は50音順

## —まず、今回の台風被害で一番困ったことはどういったことでしたか？

山口：大樹は、浸水被害はなかったけど、倒木の被害が大きくて…。断水が1週間程度続きましたね。困ったのはトイレ。トイレって大体1回で5リットルくらい水流すんですけど、水が限られていて勿体ないから少しずつ流したりして。でもそうするとつまっちゃう。

清野(祥)：そうそう、あれ、が一と流さないつまっちゃうんだよね。バケツだと見た目は流れるんだけど奥でつまっちゃう。

山口：認知症がある方や、やや認知症があるような方なんかは、断水が終わっても流すのをどうしていいのかわからなくなっちゃって、もう直っているのに流さないと外で用を足しちゃうとかけこうあったっていうのは近所の人から聞きました。1週間程度の断水だったけど、認知症の方って混乱してしまうんだっていうのは感じましたね。

石井：水を運んで腰を悪くする人も多かったですね。

山口：うん、近くに給水所があっても水を取りに来られないって人も多かった。

清野(光)：新得は3週間断水。清水は2週間断水。清水の方がちょっと復旧早かったよね。断水で一番困るのは、飲料、トイレ、あと少しするとお風呂、洗濯ね。水の問題が一番大きかった。

石井：急性期はそうですね。

清野(祥)：うちなんか施設じゃなくて在宅だから、全部家族の代わりにやるわけじゃない。食事からトイレからお風呂から…大変だったよね。職員も疲れてくるし、普段の業務全部終わってから自分の家の水汲みに行かなきゃいけないから、疲れてきてピリピリしてきてっていうのもあった。私たちだけじゃなくて、みんな疲れてきちゃうからね。話をするだけでも落ち着くっていうのもあるだろうし、だからそういう時に気持ちを聴いて周るような人がいると良かったなと思ったし、そういうのが不足しているなどは感じたよね。

## —災害があって、新たに支援が必要な世帯の発見などにはつながりましたか？

清野(光)：新得は役割分担がなんとなくできていたかな。施設は施設のことやるし、在宅はケアマネとか入ってい

るところを中心に、自分たちが関わっているところを見てっていう形だったと思う。

清野(祥)：あとは、町内会が町内会長さん中心になって頑張っていた。1回町内会とケアマネなんかの在宅関係者が集められて役場で話し合ってたっていうのもあったね。

石井：新得町は保健師さんが地区に入り込んでいて戸別訪問したんだと思う。清水でも被災地区を中心に保健師さんが入って、健康状態の把握をされていたように感じたね。

清野(光)：こちらも自分の受け持っている人を中心に見てといった感じで動いたので、統制がとれていたっていうわけではなくて…。ただ見て勝手に手当してるだけっていう…。とにかく自分たちでやれることをやろうって気持ちで動いていたかな。本当は組織だってみんなでこういうことをやろうっていう指示があった方が良かったんだけどね。ただ、おそらく役場もてんてこまいだから、色々聞かれても困るっていうのもあったんじゃない？

石井：ニーズを拾って対応するっていうのは、役場よりも社協やボランティアセンターとかの方が柔軟な対応ができるのではないのでしょうか。

清野(光)：被災当初新得はそういうの全く機能していなかった。ボランティアセンターも被災して1週間以上してから立ち上がったくらいだし。

寺本：足寄でも自衛隊含めてボランティアはたくさん入ってくるんだけど、初めのうちは経験がないから誰も指示できなくて、ただただボランティアがいっぱい来ちゃって…。社協も役場から指示来てないからって言って、役場もどうしていいかわからなくて…。結局その場にいた人がその状況で動いていた。スタートはボランティアだけいっぱい来た感じだった。

石井：災害を乗り切るときに必要なものの一つに、ボランティアをどううまくコーディネートするかっていう振り分けもすごく大切だと思うんですね。

東村：災害の規模にもよるんだろうけど、芽室町は、そういう形を作ってコーディネートするっていうのは行政で全部やっていた。ちょうど東日本大震災後に被災地に派遣されていた人が保健福祉課に戻ってきていて、そのときの経験を生かして陣頭指揮をとり行政と社協をうまくコーディネートしてくれていた。

清野(光):その辺の力があるかないかってやっぱり大きいよね。



**一今回の一連の台風被害で、災害救助法が十勝管内全域で適用になりましたが、適用されたという実感はありましたか？**

東村:ショートステイで適用になった人がいた。自宅が浸水し、町を通じて福祉避難所であるうちの施設に避難してきた町民の費用は、介護保険のショートステイではなく全額町が助成した。

清野(光):東村さんから話聞いてびっくりしたのよ。芽室はショートステイの扱いじゃなくて、ちゃんとお金が出るでしょ。新得はショートステイでケアプラン立てなきゃいけない。いくら役場に聞いても新得はただのショートステイですからの返答しかなくて。

東村:自分の落ち度で住めなくなったわけじゃないし、希望して泊まりに来たわけじゃないのにね。要介護4、5の方ならショートステイも保険内で長く使えるけど、要介護1、2の方なら保険外で負担がたかさん出る。それが芽室だと行政が負担してくれたけど、新得の場合は介護保険サービスっていう扱いだから自分で払わなきゃいけない...

清野(光):だけどやっぱりその辺は何も起きていないときから勉強しとくなり、たとえば、もし何かあった時のために町の関係機関と協定結んどくとか...その辺りはちゃんとしておかないと...

**一最後に、災害時の社会福祉士の役割はどのようなことだと思いますか？**

寺本:僕、災害の応援にも行ったけど社会福祉士っていうよりは、作業的なことが中心でした。掃除だったり、泥だしだったり。

石井:僕も職場で災害派遣に行きましたけど、社会福祉士として何かやったわけではないですね。社会福祉士として動き方、立場って考えると、急性期は医療とかDMATとかそういうのに委ねてしまうべきなんですよね。社会福祉士がいつ出てくるかを考えると、やっぱり慢性期に入って精神的に疲れてきたときにニーズをキャッチし

て動く。医療の手が離れてきたときにどう動くかが課題ですね。

清野(光):普段の状況とは別の支援だもんね。そこは。長い目で見た計画が必要だし。だから本当は、慢性期の時にどのくらいのことができるのかっていうのをもう少し考えておかないといけないな。それはおそらく生活ニーズにどう対応するかではないだろうか。

清野(祥):慢性期だとやっぱりその生活ニーズを考えなきゃいけない。北海道の生活、たとえば新得とか寒いところの生活がわかる人じゃないと入っていけないっていうのもあるような気がする。その地域特有の考え方もあるし。

東村:私も今回の災害は、社会福祉士会として何かしなきゃいけないかなとは思ってたけど、社会福祉士としてこうしようって呼びかける物は思いつかなかった。個人の意思で手伝いに行くことは全然かまわないし、みんなでも手伝いに行こうっていうのも全然かまわないのかなとも思ってたけど、結局、会として何か呼びかけるものがなくて悶々としていた。支部長だし、今何をしなければいけないんだろうと思ってたけど、でもだからって泥だしに行きませんかっていうのもなんか違うし。だから、急性期に社会福祉士としてできることはないんじゃないかなと思った。ただ、芽室町がたまたま、町で助成するという仕組みで高齢者を経済的に守ってくれたのをみると、その地域ごとの施策の違いを比較しながら不公平とか生活困窮に陥ることがないようにシステムはチェックしなきゃいけない役割だと。これも権利擁護かと。

清野(光):平常時に何かできることがあるとすれば制度の違いだとかそういうことを明らかにして、ないところには提示したり、こういう風にしませんかっていう提案をしていくとかかな。採用されるかは別としてね。それと、普段から社会福祉士は何ができるのかっていうのは考えておいた方がいいよね。職域を超えたような話だから普段はなかなか考えられないんだろうけどね。それぞれが所属を超えて社会福祉士って何？何をすべき人なのか？っていうのを普段から考えていないから、どうしても自分の所属している中で考えるような癖がついてしまっている。だから、社会福祉士として動かなきゃいけないっていう時に何もでないし、踏み出せないのではないだろうか。

清野(祥):おそらく直接行って、体を使って何かをした方が楽なんだよね。やったっていう実感があるから。自分のブルーな気持ちも少し軽くなって、自己満足感があるかもしれないけど、現地に行かなくてもできることってあるし、行ってやるばかりがいいとは限らないこともあると思う。

東村:たとえば、今回の災害で鹿追の特養がお風呂を被災地の方に貸してくれたように自分のところの資源をちょっと貸してあげるとか、ちょっと開放するとかそういう普段からの視点もすごく大切。現地に行くことばかり考えちゃうと、半分足りないような気がする。会員それぞれの所属しているところで大事にすべきこと、できること...そっちを少し整理したいなっていうのはありますよね。被災地支援ではなく、災害時のソーシャルワークについて...

清野(光):普段から生活ニーズって何か?っていうことはやっぱりみんなで話し合っておく必要があるよね。急性期は命や救命が優先されるから、生活ニーズって出てこない。僕らの出番っておそらく生活ニーズが出てきたときに、それを表現してちゃんと手当するっていう役割だと思う。まずその災害の生活ニーズって何なの

かっていうのをちゃんと見極められる力と、手当するネットワーク。コーディネートする力とか、そんなのが求められてくるのかな。



—今回の台風被害の教訓を生かして、日ごろからの準備の大切さや社会福祉士として何ができるのかなど考えていかなければいけないと改めて実感しました。本日は、お忙しい中、貴重なお話を聴かせていただきありがとうございました!

#### ☆おまけ☆

今回の座談会は、芽室町のフリースペース『リビングカフェENGAWA』さんで開催しました。とってもおしゃれな空間で、使用料も無料(夜間使用16:00~21:00までは芽室町役場 建設都市整備課 計画係へ予約が必要)です。ちょっとした会議や友人同士の集まりなどにいかがでしょうか? (\*^\_^\*)

#### 今後の予定

今後の予定:

#### PMCラボ開催のお知らせ

日時:平成29年2月18日(土) 13:30~16:30

場所:協立すこやかクリニック(〒085-0055 釧路市治水町6-30)



テーマ:『災害対策とソーシャルワーク~災害に備えてソーシャルワーカーが知っておくべきこと~』

講師:北星学園大学 社会福祉学部福祉計画学科 岡田直人教授

\* 詳細は添付のPMCラボの案内をご参照ください。十勝地区支部のホームページからもダウンロードできます。